



# 自衛隊栃木地方協力本部

## 南極観測船 砕氷艦「しらせ」体験航海に参加 ～南極の研究に触れる貴重な体験～



横浜山下ふ頭に停泊する「しらせ」



ベイブリッジの下を通過する  
「しらせ」から撮影



ラッパ吹奏の様子

こうして心に残る特別な体験に思いをはせ、名残惜しそうに岸壁に停泊している艦艇を眺め、横須賀地区をあとにした。

約2時間の航海を終え、横須賀基地へ到着すると、基地内には多くの艦艇が停泊しており、ちょうど出航する護衛艦の姿を見て「あの艦艇はなんですか？」など多くの質問をするなど、海上自衛隊に興味を抱いた様子があった。参加した学生は「今日の見学とても楽しみにしていました。普段は絶対見られない砕氷艦「しらせ」の中に入り、南極の研究についても知ることが出来てとても興味深く感じました」と笑顔で話してくれました。

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 加藤 浩一陸佐）は4月14日（日）、募集対象者等4名の砕氷艦「しらせ」体験航海参加を支援した。この体験航海は、横浜山下ふ頭から横須賀基地までの間で実施されたものであり、岸壁に到着すると、まず大きなオレンジ色の艦艇が目に入り、参加者たちはその大きさに驚いた様子であった。艦内に入る棧橋には「海上自衛隊砕氷艦「しらせ」と記載してあり、普段は見ることのできない砕氷艦「しらせ」乗艦への期待で参加者は目を輝かせていた。艦内は南極に関する展示品があり、南極でブリザードに耐えた自衛艦旗や南極の石や氷、ペンギンの模型展示など来場者の目を惹きつけていた。体験航海が始まると、横浜山下ふ頭のすぐ隣にある山下公園から、手を振る見学者に答え、大きく手を振る参加者が印象的であった。ベイブリッジの下をくぐり東京湾に出ると、「ベイブリッジを下から見るなんて初めてです！」と興奮したように話していた。



海上自衛隊砕氷艦  
「しらせ」の表示



南極でブリザードに  
耐えた自衛艦旗



ペンギンの模型展示



艦内の様子



しらせの前で記念撮影